

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



ルサカ州保健局で開催された感染予防管理会議にて、ルサカ州保健局長のチョオンガ氏が開会の挨拶を行う様子。

左から：ルサカ州保健局のキャセル・チボーラ氏（環境衛生官）、イヌトウ・バングウェタ氏（主任看護師）、シムルヤマナ・チョオンガ氏（保健局長）と緒方業務調整。

人材交流から学んだ
グッドプラクティスを
看護師が共有

手術部位感染を
減らす取り組みを
話し合う
：ルサカの
一次レベル病院

フォト・フォーカス



人材交流から学んだ グッドプラクティスを看護師が共有



イヌトゥ・バングウェタ氏(ルサカ州保健局)が、看護師たちによるベストプラクティスの共有に関する会議を進行している様子。

2024年9月12日、ルサカ州保健局は、第2回州四半期看護部長会議を開催しました。一次レベル病院の看護師と大学教育病院(UTH)の看護師は9月9日に相互訪問を実施しました。ここから得られたアイデアとベストプラクティスについて議論するためです。

この人材交流プログラムを提案したのは、ルサカ州の主任看護官であるイヌトゥ・バングエタ氏です。彼女の提案は、病院の現状を改善するために、さまざまな医療施設のベストプラクティスを共有する機会が必要であるとするもので、7月11日に開催された第1回州四半期看護部長会議で皆が合意しました。

今回の会議では、州保健局が管轄する病院の看護部長や担当看護師が、このプログラムで学んだベストプラクティスについて発表しました。例えば、チパタ病院のファニー・ムヴラ・シカズウェ氏は、大学教育病院(UTH)で、新生児

集中治療室(NICU)、トリアージ、高度治療室(HDU)、分べん室、手術室、産科集中治療室(OICU)などの各部署を同僚と訪れた経験を共有しました。看護業務の包括的な引き継ぎが行われていること、スタッフが決められた時間に出勤していること、各部署が常に5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)を実践していること、そして看護実践手順が目につく場所に掲示されていることを発表しました。彼女は、一次レベル病院の看護師と患者の比率が、UTHのように望ましい比率になることも望んでいます。

また、受け入れ側の大学教育病院(UTH)も、廃棄物の分別、スタッフが決められた制服を着用すること、手術待ち時間の長さなど、全般的に改善できる部分について参加者からフィードバックを受けました。会議では、州保健局が実施した看護監査の結果についても話し合いました。特に、看護記録の文書化と感染予防管理(IPC)の問題が議論となりました。



チョオンガ氏が、看護部長会議で開会の挨拶を行う様子。



参加者たちが会議で自身の経験を共有している様子。



プレゼンテーション中の村井チーフアドバイザー。



チパター一次レベル病院のファニー・ムヴラ・シカズウェ氏が、会議で自身の経験を共有している様子。

手術部位感染を減らす取り組みを話し合う ：ルサカの一次レベル病院

ルサカ州保健局長のシムルヤマナ・チョオンガ氏の招きにより、感染予防管理 (IPC) の四半期会議が、2024年9月11日に開催されました。ルサカの5つの一次レベル病院からIPC担当医師、IPC担当看護師、環境衛生技術者 (EHT)、病院情報担当者 (HIO)、および検査室の代表者が、ルサカ州保健局に集まりました。議題は、各施設の手術部位感染 (SSI) のサーベイランスの結果と対策について話し合うことでした。

州保健局のシニア環境担当官であるキャセル・チボラ氏は、この会議の目的は、5つの対象病院の手術部位感染 (SSI) データのレビューとモニタリング、さまざまな介入策の検討と実用的な行動指針の提示と述べました。

各病院の代表者は、手術部位感染 (SSI) の発生率およびその考えられる原因について発表しました。出席者からの提言は、施設の燻蒸 (くんじょ

う) から医療従事者の適切な衛生習慣まで多岐にわたりました。また問題点として、医療機器の滅菌に必要な設備や燻蒸 (くんじょ) 機のない施設があることが指摘されました。

チョオンガ局長は、病院にて手術部位感染 (SSI) の発生率を抑えることが必要と強調しました。また、技術支援と研修の機会を提供してくれたカシオペア・プロジェクト (JICA) に感謝の言葉を述べました。チョオンガ局長は、カシオペア・プロジェクトに対して、病院職員が手術部位感染 (SSI) の発生率を低減させる能力を開発し、サーベイランスを州全体に拡大する検討への支援を期待しています。

カシオペア・プロジェクトの村井チーフアドバイザーは、発表の中で、医療施設内および患者の自宅で、患者はどこで感染しているのかを調査するよう促しました。入手可能なデータから、病院スタッフは既に手術部位感染 (SSI) の発生率

が高くなる原因を調べていますが、村井チーフは調査の範囲を広げることを強調し、患者との接触があるポイントをマッピングし、感染の原因となり得るものを検討することを初めの一步として推奨しました。

出席者は、院内での患者の移動経路をまずマッピングし、次いで、患者が感染のリスクにさらされる可能性のあるポイントを特定し、感染を阻止するために取り得る対策を検討し、発表しました。このグループワークの結果および今後の調査結果は、院内のIPC委員会および病院経営陣と共有することが求められました。



感染予防管理 (IPC) のニャンガ専門家と、カニャマ一次レベル病院のIPCチーム。



チパター一次レベル病院のラボ担当メモリー・チエウエ氏と環境衛生官のネリー・ダカ氏。

PHOTO FOCUS



感染予防管理 (IPC) のニャンガ専門家が、マテロー次レベル病院のジェーン・ボタ氏とフローレンス・ムワンザ氏とともに現場視察を行う様子。



ルサカ州保健局のアニー・チサンガ氏(右から2番目)がチャワマ次レベル病院での感染予防管理ラウンドに参加。



ニャンガ専門家がチパター次レベル病院での月次データレビュー会議に出席している様子。



ザンビア国外科産科・麻酔計画改訂会議 (NSOAP) で、プロジェクトの村井チーフアドバイザーがプレゼンテーションを行う様子。



ニャンガ専門家がバウレミニニ病院への感染予防管理 (IPC) 支援をしている様子。



ニャンガ専門家がチェルストーンニニ病院への感染予防管理 (IPC) 支援をしている様子。



マテロー次レベル病院の感染予防管理 (IPC) チームがチャワマIPCチームを訪問し、IPCラウンドを観察した後の様子。(左から、ニャンガ専門家、プリンス・プワリヤ氏、ブリジット・シティマ氏、ムエンバ・マシリ氏、ジャクリン・ムラコ氏、エゼキエル・カンコロト氏。)

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ
 編集: 緒方 敬
 編集長: 村井 真介

連絡先
 村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
 Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka,
 10101, ZAMBIA
 Cell: +260 765 192 865 (official)

Japan International Cooperation Agency